

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2022年度 助成者)

作成日 2022年 9月 19日

氏名 (フリガナ)	高野彩佳 (タカノアヤカ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2022年8月15日 (月) ~ 8月20日 (土)
大学名	群馬大学
学年	5年

この度、日米医学医療交流財団のサポートの下、2022年8月15日-19日に開催された医学部下記集中医学英語研修に参加いたしました。このプログラムに申し込んだ目的は(1) 普段勉強している英語を医療現場で使えるものにする、(2) 海外の臨床実習に参加できるスキルの基礎を学ぶこと、(3) 診療科を超えた横断的な臨床推論の力を身につけることでした。

プログラムでは、主に **history taking** と **case presentation** の基礎を学びました。これまで留学の選考等に向けて、独学で挑戦したことはありましたが、系統立てて学んだことはなかったうえ、先生方にフィードバックを受けたことはありませんでした。獲得すべきスキルを明確にして、5日間で集中的に学ぶことができ、大変効果的であると感じました。

また、大学で「何の病気か分からない状態で問診や臨床推論を行う」というトレーニングを受ける機会があまりなかったため、医療英語以外の部分でもこれまで学習した知識の整理や臨床推論の手法について学びを深めることができました。

ハワイ大学の医学生と共に **PBL** を行う機会にも恵まれました。米国では4年制大学を卒業したのちに医学部に入学するため、医師になることへのモチベーションの高さや入学後の時間の使い方が日本とかなり異なると聞いていた通り、入学して数週間という学生も、知識や積極性が非常に高く刺激を受けました。

一方で、疾患の詳細について私たちから説明したり、議論の流れをサポートすることもあり、これまでの日本の医学部での学びを英語での **PBL** に生かすことができ、自信がついた機会でもありました。加えて、日本から参加した参加者の多くが高い英語力と医学知識を有し、自分のレベルアップに集中している姿がとても励みになりました。

帰国後には、ハワイで出会った先生方とメッセージのやりとりや **zoom** でお話しする機会をいただき、自分の目指すべき方向や必要なスキルがより明確になりました。引き続き、英語学習や情報収集に取り組んでおります。

また、英語での医療面接や臨床推論についてさらにトレーニングを積みたいと感じたため、学内の外国人の先生にお願いし、英語での **PBL** の機会を設けていただきました。今後、学内でもこの機会を展開していきたいと考えています。

申し込み以前は、自身の目標である公衆衛生のキャリアに直接的に結びつくわけではないから、と参加を迷ったこともありましたが、英語での **history taking** と **case presentation** の基礎を学ぶことができ、また、日米両国の同志から刺激を受けることができ、参加したことで大きな収穫がたくさんありました。最後になりますが、このような環境を提供してくださった、ハワイ 聖ルカクリニック院長 小林恵一先生、日米医学医療交流財団、東海大学、神戸大学および Hawaii Tokai International College の皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。